

文章:

ジャ・ムラドフ

写真:

フェルガナ・カシムリー

ファミール・マフムドバイリ

ソ連の処刑の夜





ほんの数年前、この国、この力は揺るぎないように見えました...
その国は果てしない海の真ん中にある岩のようでした。他の海岸に行きたがっていたこの島の住民は、多くの苦難に運命づけられていました。そして、この理由だけで、ソビエトの人々のうち、海外に行きたい人はほとんどいませんでした。共産主義の超大国 - ソビエト連邦は「鉄のカーテン」によって世界のほとんどの国から隔離されていました。ここでは、全体主義的な方法の助けを借

りて、新しい人物、つまり共産主義の建設者、または西洋の用語で「ホモ・ソヴィエティクス」を生み出すことが目標でした。この新しい人は、いくつかの国民的特徴を持ち、主に外面的に装飾的な計画であり、ソビエト社会主義共和国連邦と呼ばれる偉大で広大な国の市民である、完全に新しい世界の一部であると感じなければなりません。国の特徴、言語、違いのぼやけ、平準化は、広範囲にわたる願望を持っていました。主なメッセージは、未解決の国家問題は国を破壊する可能

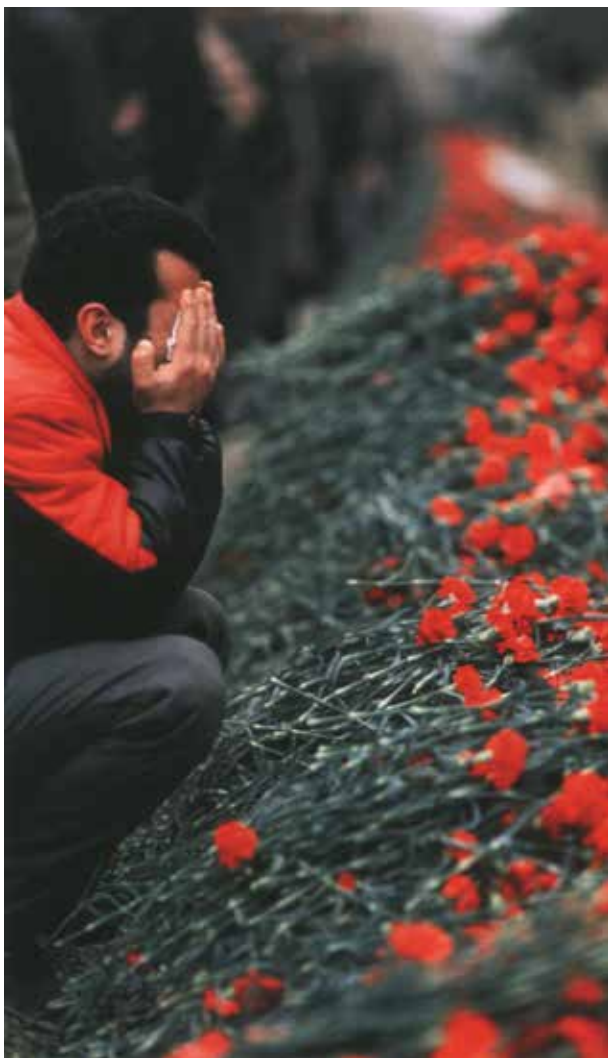


性があるということでした。その団結は、この問題を大衆意識からできるだけ遠ざけることに基づいていました。

現在、多くのアナリスト、歴史家、政治学者が、そのような「偉大な」国の崩壊の理由について議論しています。かつての「ソビエト人」の中には、昔を懐かしむものさえあり、子供時代と若者ののんきな時間をすべてのソビエト人にとって幸せな時間として提示したが、同時に、この幻想的な幸福が何に基づいて構築され、どのような犠牲を払って達成されたかを忘れていました。彼らは、記憶に残る時代に父親や祖父に降りかかった試練を忘れていました。当局が一晩で人々全員を牛の列車、いわゆる「車」に積み込み、何千キロも亡命させるのに何の費用もかからなかったときでした。そのような運命は多くの人々に降りかかり、アゼルバイジャン人をコーカサスから追い出す計画もありました。しかし、すぐにではなく、段階的に行うことにしました...

そして、アゼルバイジャン人は、ソビエト政権の前と社会主義の下で何度も再定住しました。主に - 現代のアルメニアの領土からで





した。最後にそのようなキャンペーンが戦争の後、1947年12月23日のソ連閣僚会議令第4083号に従って、1947年から1953年にかけて、アルメニア社会貢献のアゼルバイジャン人の再定住が実施されました。これに先立ち、1946年11月21日、同機関は「外国人アルメニア人のソビエト アルメニアへの返還措置について」という決議を採択しました。アルメニア人の「歴史的な故郷」への送還キャンペーンが始まりました。アメリカ、フランス、ルーマニア、エジプト、ブルガリア、レバノン、シリアなど12カ国で、約36万人がソ連への移住希望を表明した。送還者の宿泊施設の問題は、アルメニア領土の故郷に何世紀にもわたって住んでいたアゼルバイジャン人を犠牲にして解決する必要があると見なされました。

そして、これはすべて、友情と人々の平等に関するスローガンが公式のイデオロギーの基礎であったソビエト連邦で起こり、国家問題を提起しようとする試みは厳しく罰せられました。しかし、これらはスローガンにすぎませんでした。生活の中で、ジョージ・オーウェルの有名なフレーズを使用すると、他の人々よりも平等だった人々がいます。したがって、アルメニア人は、帝政下とソビエト支配下の両方で、特別な地位を持っていました。アルメニアにおけるナショナリズムの現れは、ソビエト政権の最高権力の時代にも注目されました。しかし、他の地域での同様のケースで使用されたような厳しい懲罰措置は満たしていませんでした。

ソ連共産党政権の危機が肉眼で見えた1988年、アゼルバイジャンのナゴルノ カラバフ自治区（NKAR）では、アルメニア人の集会がアゼルバイジャンからの脱退とアルメニアへの加盟を要求し始めました。そして今回は、控えめに言っても、起こっていることに対する中央当局の忠実な態度がありました。アルメニアから、そして他の地域からグループで派遣された過激派の手で銃器が話し始めたときさえもそうでした。並行して、アルメニア

の領土からのアゼルバイジャン人の最後の、現在は暴力的な立ち退きが、殺人のある場所で、純粋に犯罪のおよび犯罪的な方法を使用して始まりました。

アゼルバイジャン人にとって、誰かが共和国の一部を真剣に分離しようとしているという事実は、特にそれがカラバフについてだったので、何か巨大で考えられないものでした。カラバフでの以前の出来事を保持している人々の記憶は、これがすべてうまくいかなかったことを示唆していました。その間、中央当局はあらゆる方法で問題を引きずり出し、アルメニアの分離主義者に法廷を開き、彼らの疑似歴史的議論に真剣に耳を傾けました。

それは、2 つのソビエト共和国の間で開かれた領土紛争と国民的対立が勃発した初めてのことでした。1989年のソ連人民代議員会議の演壇から、アルメニアの代議員は扇動的な演説を行い、分離主義を公然と擁護し、それに応えて、アゼルバイジャンの代議員は理由と秩序を求めた。魔人が瓶から解放された！間違いなく、一連の民族間紛争の始まりがカラバフで築かれました。ドミノ原理に従って、ソビエト帝国の他の辺境の地域をカバーしていたそれは、東ヨーロッパ諸国でのクーデターの形で続けられました。これらすべての出来事は、最終的に共産主義の崩壊につながりました。



一方、バクーでは、はびこるアルメニアの分離主義と組合センターの支持者に抗議するために、ラリーの叙事詩が本格化していました。数万人、数十万人がレーニン広場に集まり、後に自由広場と改名されました。アゼルバイジャンは激怒し、憤慨しました。イベントはソ連の指導者にとってますます望ましくない性格を帯び、クレムリンで対策が講じられ始めました。

新聞に掲載されたデータによると、1990年1月16日から19日にかけて、トランスコ





ーカサス、モスクワ、レニングラード、およびその他の軍事地区、海軍、内務省の内部部隊の一部が入った大規模な作戦グループがバクーの郊外に作られました。バクー湾とそこへのアプローチは、レッド バナー カスピ海艦隊船やボートによってブロックされました。1 月 19 ～ 20 日の夜、ソビエト軍はアゼルバイジャン人民戦線を打ち負かし、アゼルバイジャンの共産党の力を救うために、バクーへの攻撃を開始しました。「ストライク」と呼ばれるこの作戦の正式な根拠、真夜中から導入された市内の緊急事態の導入に関する法令として機能しました。しかし、ソ連の国家安全保障省の特別グループによる爆発の後、テレビ局の電源が19:30にオフになったため、市の住民は何が起こっているのかわかりませんでした。国民のほとんどは、午前 5 時 30 分にラジオのアナウンスとヘリコプターから投下されたビラで非常事態を知りました。この時まで、ソビエト軍の行動の結果として、都市とその周辺での彼らの不合理で過度の武力行使により、多くの民間人の死傷者が出ました。1990 年 1 月 20 日の悲劇的な出来事の状態と原

因を調査する共和党委員会によると、131 人が死亡し、さらに 744 人が負傷しました。

1 月 22 日、バクーのすべての人が通りに出て、S.M. キーロフにちなんで名付けられた公園に埋葬された悲劇の犠牲者の最後の旅を見送りました。1918 年の大量虐殺の犠牲者がかつて埋葬されていた、古い田舎の墓地の場所にあります。ソビエト時代、墓地は破壊され、この場所には公園が作られましたが、現在、首都のこの一角は殉教者の路地として知られています。

アゼルバイジャンは、カラバフ問題で独立闘争の英雄、正義のための非武装の戦闘機を埋葬しました。葬式当日、軍司令官の禁止事項に反して、空港、鉄道駅、長距離電話通信が機能しなくなり、バクー湾のカスピ海海運会社の船は絶え間なく喪のビープ音を鳴らしました。次の40日間、1時間ごとにサイレンが鳴り響き、パン屋と病院を除いて、企業や組織は機能しませんでした。アゼルバイジャンを通過する油田、プラント、工場、国際および全連合の輸送動脈がありました。人々は胸に黒いリボンをつけていました。多くの男性は



喪の印として髭を剃らず、女性は黒いヘッドスカーフを脱がなかったです。

1990 年 1 月 20 日 - アゼルバイジャンの共産主義体制であるソビエト権力の執行日です。悲劇の翌朝、武装していない人々への報



復という形で脅迫と抑圧が行われた街の通りと、死体が肩に担がれた道は、カーネーションで覆われていました。それ以来、悲劇の象徴となったこれらの美しい花は、愛する人に贈られることはなく、墓に置かれるだけです。緋色のカーネーションは、痛み、悲しみ、プライド、大胆不敵、無私無欲、不従順、祖国への愛の象徴です。32 年前の 1 月 20 日、アゼルバイジャン人は、中央広場から旧高台公園の古い墓地 (現在の殉教者の路地) までの同じルートに沿って喪の行進を行ってきました。その後、第一次カラバフ戦争の戦没者が埋葬されました。

1月20日は追悼の日であり、追悼の日であり、自由のために命を惜しまなかった人々、戦車に対して、独裁者に対して、不正に対して非武装で戦うことを恐れなかった人々の誇りの日です。

1月20日は、自由で強いアゼルバイジャンという新しい国の誕生日です。その殉教者に強く、神聖な闘争に陥った-生命のための闘争! ★